

今、地域がおもしろい

沼田睦美

中川保健所新生児訪問指導員(名古屋市)

夕食もすませ、家族が思い思いにくつろいでいたある日、電話のベルが鳴りました。「先輩お元気ですか」と流れてきたその声は、聖霊病院の家城さんです。職場の責任者であり、3人の子供のお母さんである彼女の生活は多忙そのもののなのに、少しもそれを感じさせません。電話の声そのままに、おしゃれで、やさしい雰囲気は、誰もが彼女を好きになってしまいます。

「りれー随筆、お願いします」のやりとりとともに、全国各地の助産婦さんの手から手へバトンタッチされた“りれー随筆”が、名古屋の中川区まで来たというわけですね。なにかしら懐かしい友達と、久しぶりに会ったような、そんな気持ちで引き継ぎました。

フリー助産婦としての日々

私は今、フリーの助産婦として地域に出ています。慣れ親しんだ病院勤務から飛び出して、漠然と広いこの地域で、何がいったいどうなるのという気持ちでスタートして早くも2年目に入りました。主な仕事は保健所の新生児訪問で、月平均20件です。家庭の要請による沐浴や、乳房マッサージ、保健所の母親教室、時には区民まつりの救護班に加わることもあります。今まで450軒のお宅を訪問しました。

公園や広場で遊んでいる母子とは、ほとんど顔見知りになってきました。慣れないベビーの世話で家に閉じこもっていたお母さんが、ベビーとお散歩に出るようになったら、まずはひと安心です。青空の下での仕事も慣れてくれば、

楽しみもあるのです。春はレンゲ、5月は青い風、季節の表情がしみじみ味わえます。病院勤務のころは、扁桃腺がいつも痛かったのですが、今は風邪をひかなくなり、私の身体の調子も良いようです。

先日の母親学級では、安産教室と題して、三拍子呼吸法を実際に行なってみたところ、お母さん方に好評だったことを後で上司からうかがい、地域に必要な助産婦のあり方が最近つかめてきたところです。

私の願いは、母親が、母乳育児を通じて、より人間的に成長し、大人の女性になってほしいことです。縁あってかかわった親子の成長を、生活の場から見続けるのも、地域の仕事ならではの喜びとおもしろさなのです。

ステキな助産婦さんたちとのであい

名古屋に嫁いで12年。知人もなく、不慣れた土地での出産、心身を消耗した不測の乳汁過多症、それによるマタニティ・ブルーと、私の産後1年間は体調がすぐれず、本当に辛い日々でした(助産婦でもなるんですよ!)。その辛い日々をのりこえられたのは、まさに良き相談者に恵まれたからです。それは聖霊病院の助産婦さんたちでした。温かい雰囲気の中で、丸ごと受けとめて、引き受けてくださったのだと思います。母乳外来の存在は大きく、そこに行きさえすれば何とかかなるという、心の安らぎがありました。

家城さんは、私の最も良き理解者となってく



れました。出産して4年後、勤務した診療所では母乳育児を援助するために、乳房管理をとり入れたのですが、長く継続できたのも彼女のアドバイスによるものが大きかったと思います。また、そのことが、私を再び助産婦として蘇生させてくれたのでした。

頼る人から頼られる助産婦へ

辛い母乳育児を経験した後、“助産婦さんは頼りになる人”という思いが私の胸の奥深くに生き続け、それから12年後、今度は自分自身が“頼られる助産婦さんになりたい”という願いに変わりました。1989年4月、夫と一人娘のさやかな盛大な(?)見送りを受け、長野県にある諏訪マタニティ・クリニックの長期研修生の1期生になりました。40歳過ぎでの研修は、能力、体力ともに厳しいものがありましたが、わずか半年とはいえ、私には何年分にも値するほどの収穫を得ることができました。

乳汁分泌過多症は、私の研究テーマとなって、今では適度な後搾り、基底部マッサージの中止、圧迫帯や冷罨法の使用により、特別な食事制限や水分制限を必要としないコントロールが可能になりました。

家庭訪問で、6人の方が分泌過多で悩んでおりましたが、医師に紹介したのは1名で、その他の方は圧迫帯の使用のみで、10～14日で胸が楽になり、乳汁の分泌量が落ち着いたとの連絡が入りました。特に、前回も分泌過多の方は、その効果に納得されています。

私もいつかきっと

夫は私の仕事を「世の中まんざら捨てたものではないよ、という部分のとても大切な仕事、ガンバッテ」と、私が絶対ニコニコしてしまう嬉しい評価をしてくれます。

人生80年とすれば、まだ半分もあります。これからの人生をどう生きてゆくかを考える時、今までの自分についてを振り返ります。

私が助産婦になることをすすめてくださった山梨県立中央病院の当時の大沢婦長さん。今も年賀状をくださる日赤産院助産婦学校の恩師、清水すみえ先生。自宅通勤していた人情いっぱいの加納岩病院の方々。青春のふるさと、虎の門病院。名古屋の聖霊病院を快く紹介して下さった大島清先生。いつも乳房トラブルの紹介に快く応じてくださる中川診療所の方々。

ほんとうに多くの方に協力していただき、助けていただいております。皆さんからいただいた多くの贈り物は、地域のお母さんたちに返していこうと思います。そしていつの日かきっとこの地に、可愛いおっぱいサロンを作りたいと夢見る私です。それでは皆さん、お元気で。

* * *

次のバトンには虎の門病院の友人、川元知子さんをお願いします。乳房管理に力を入れたいと、昨年から諏訪マタニティ・クリニックで何人かと一緒に短期研修を受けられているようですが、健闘を祈っています。それではよろしくをお願いします。